

広島技調じゃけん！通信

2016.9
Vol.33
AUTUMN

平成28年度 第1回 民間技術説明会を開催しました！

港湾工事等で活用が期待される新技術の情報収集の場として開催しているこの説明会は、みなさまからの注目度も高く、今回も当事務所HPでご案内をすると締切日を待たずして定員に達してしまいました。

様々な分野で進められている技術開発に関する説明に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

《日 時》平成28年8月30日(火) 13:30～16:30

《紹介技術》

- ① 低発熱型高炉セメント
- ② けい酸塩系コンクリート含浸材「SUPER SHIELD」
- ③ GR-U（がたつき対策型グレーチングと集水柵鉄蓋）
- ④ 車両牽引式マルチチャープレーダ・水上バイク測深
- ⑤ 小型貝殻ブロック「貝藻くん」



港湾施設の長寿命化に対応した興味深い話題が多かったと好評でした！

平成28年度 第1回 実のある学舎（まなびや）を開催しました！

「いつもなら話を聞くことができない先生方から貴重な話を聞ける」と楽しみにしてくださっている方もいるこの講演会は、今回、用意した席が満席となりました。

講師の加藤氏より、これまでの港湾施設の維持管理の特徴や問題点、点検診断の効率化に向けた技術開発等の各種取組をわかりやすくご説明いただき、最後の質疑応答では多くの方からご発言があり、活発な意見交換が行われました。

《日 時》平成28年9月15日(木) 15:00～17:00

《概 要》

演題：港湾施設の維持管理に関する技術開発

講師：国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
港湾空港技術研究所 構造研究領域
構造研究グループ長 加藤 絵万 氏



参加者からは、「日常の維持管理点検業務の参考になった」といううれしいご感想も寄せていただきました。

夏期実習（インターンシップ）を実施しました！

広島技調では、8月29日から2週間、鳥取大学の学生1名を夏期実習生として迎えました。

はじめに、港湾・空港整備の概要や港湾事業について学習し、実際に広島港を見学しました。その後、広島港出島地区の岸壁の試設計を行い、最終日に「インターンシップの活動報告」と題して職員の前で実習成果の発表を行いました。

職場の雰囲気を感じ、より実務に近い体験をしてもらうことで、国土交通行政や建設業への理解を深めていただく一助になればと思います。



成果発表風景。港湾土木の魅力が伝わった…?!

★上記研修・講演会については、当事務所HPで詳しい情報をご覧いただけます。
なお、冬季も開催を予定しておりますので、ご興味のある方はぜひご参加ください♪

広島技調

検索

存じてるか? “みなと”のこと

広島技調と広島港湾・空港整備事務所では、“みなと”について幅広く感心を持ち、同時に広島港の役割や重要性を学んでいただくことを目的として、小学生と保護者の方を対象に「みなと広島親子見学会」というイベントを毎年開催しています。

今年は、7月28日、29日の2日間にわたって開催し、計59名の方にご参加いただきました。

見学会では、はじめに広島技調の職員が紙芝居を用いて、みなとの役割や岸壁・防波堤といった港湾施設、海の掃除をする海面清掃船「おんど2000」の説明を行います。続いて、港湾業務艇「りゅうせい」に乗り込み、広島港湾・空港整備事務所の若手職員による案内で広島港の様々な港湾施設を海から見学いただきました。

災害発生! そのとき

さて、広島技調の職員が紹介するこの紙芝居、いつもは「岸壁」「防波堤」「海面清掃船」の3本立てなのですが、今回は新たに、中国地方整備局が今年4月に実施した熊本地震被災地への支援物資輸送のお話を追加しました。

平成28年4月14日に加え、16日未明に発生した熊本地震は、熊本・大分両県に甚大な被害をもたらすとともに、被災者数は一時18万人にもものぼりました。国土交通省では、あらゆる手段を講じて被災地の支援を行うこととし、中国地方整備局においては緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の派遣と資機材の支援を行いました。

その一環として、中国地方整備局が保有する「おんど2000」と「りゅうせい」を活用した緊急物資の海上輸送も行われました。通常、瀬戸内海に浮遊するゴミの回収業務や港湾工事の監督及び調査業務に使用する船舶を活用した物資輸送は初めての試みでした。

道路や鉄道が不通となり陸路が使えないときも、海からなら一度に大量の支援物資の運搬が可能です。「おんど2000」と「りゅうせい」は4月18日に別府港へ入港し、積み込んでいた飲料水や非常食等の支援物資は、被災自治体における災害協定締結団体により内陸へと運ばれました。

災害が発生する前に官民が包括的な災害協定を結ぶことにより、大規模災害発生時の混乱を避け、被災地の要請を共有し、必要な調整を適切に行うことで迅速かつ円滑な災害応急対応策が可能となります。

今回、港湾のネットワークを活用した「プッシュ型物資支援※」が円滑に実施されたのも、「1.災害支援を見据えた港湾施設の点検を迅速に実施できたこと」に加えて、「2.平時より、国、港湾管理者、港湾利用者及び災害協定締結団体が協力体制を構築していたこと」が挙げられます。

このような協力体制の構築により、全国的な技術力・資機材などの協力が得られ、災害対応力の強化に資するものと期待がかけられています。



↑ クイズを交えて、お子さまにも分かりやすくご説明します。



↑ 「おんど2000」で回収したゴミで作ったトラクミュージアムに子供達は興味津々！！



↑ 「おんど2000」で支援物資を運んだときの様子を写真でご紹介しました。

※ **プッシュ型物資支援**：国が被災府県からの具体的な要請を待たないで、避難所避難者への支援を中心に必要不可欠と見込まれる物資を調達し、被災地に物資を緊急輸送すること。(内閣府HPより)

